

実施要領 様式11(第13条関係)  
【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成20年5月9日

### 【評価実施概要】

事業所番号	270400203
法人名	医療法人済寿会
事業所名	グループホームあしたばの家
所在地	黒石市末広6-1 (電話) 0172-59-1422
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年11月28日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	平成13年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算	7.35人

#### (2)建物概要

建物構造	木造一部鉄骨	造り
	2階建ての	1階部分

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,000円ほか 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

#### (4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.1 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	あしたばの里黒石診療所、厚生病院、清藤歯科医院
---------	-------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭的な環境と地域住民との交流の下で生活機能訓練を行うこと、自立した日常生活のために利用者個々の能力に応じた生活援助を行うことを主旨とした理念を掲げており、職員は明るく穏やかに利用者に接する等、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。

管理者は医師の資格を、計画作成担当者は看護師の資格を持っているほか、協力医療機関も確保しており、医療面での充実したケアを提供できる体制となっている。また、利用者や家族が希望する医療機関での受診も支援しており、受診結果は家族との共有が図られている。

食事が楽しみなものとなるように献立には利用者の好みを取り入れるほか、畑で採れた野菜を食卓に出したり、食事前に調理担当者が献立を説明をする等の工夫が行われている。

### 【特に改善が求められる点】

外部研修受講後は全職員に報告書を回覧しているが、より詳細に研修内容が伝わるよう、月1回の職員会議の場を活用したり、内部研修のテーマとして取り上げる等の取り組みに期待したい。また、同業者同士の情報交換等を通してホームや職員の質の向上につなげたいと意欲的なので、地域包括支援センターの協力を得る等の働きかけにも期待したい。

全職員が身体拘束の内容等について理解し、拘束のないケアが実践されているが、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、拘束の理由や期間、経過等を記録する様式を整備してはどうか。

災害時に備えて避難訓練は行われているが、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果について全職員で話し合いを行っており、地域密着型サービスの意義等を盛り込んだ分かりやすい理念を掲げる等、改善に向けた取組みが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や活用方法等を職員全員で学習しており、自己評価を実施する際には全職員で取組んだ上で管理者がまとめて完成させている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1回開催しており、メンバーの出席率は高い。会議では外部評価や事業・行事等の報告を行っており、メンバーからは感想や意見等を出してもらっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用料支払い時や面会時、年4回発行しているホーム便り等を通じて暮らしぶりや健康状態等を家族に報告し、意見や希望等がないか聞いている。また、重要事項説明書にはホーム内外の苦情受付窓口を明示しており、家族から意見等が出された時はミーティングで話し合い、今後の運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のスーパーに買い物に出かけるほか、保育園との交流を図ったり、地域の文化祭に作品を出品する等、地域との関わりを持つための取組みが行われている。法人を通して実習生を受け入れたり、ホーム専属のボランティアを確保し、行事の時には協力してもらったり、地域に開かれたホーム作りも行っている。また、訪問者を受け入れる時は利用者のプライバシーが保たれるよう配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のスーパーに買い物に出かけるほか、保育園との交流を図ったり、地域の文化祭に作品を出品する等、地域との関わりを持つための取組みが行われている。法人を通して実習生を受け入れたり、ホーム専属のボランティアを確保し、行事の時には協力してもらったり、地域に開かれたホーム作りも行っている。また、訪問者を受け入れる時は利用者のプライバシーが保たれるよう配慮している。</p>

## 【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>地域密着型サービスの意義等を盛り込んだ理念を掲げており、日々のケアの拠り所とするために朝夕の申し送り時等に全職員で唱和している。</p> <p>人材育成のために年1回以上は外部研修に職員を派遣するほか、医師や看護師、栄養士の資格を持った職員を配置する等、専門性の高いケアを提供できるような体制づくりに努めている。</p> <p>職員の異動による利用者への影響を理解しており、馴染みの職員が対応するよう努めている。異動や新しい職員を配置する時は利用者に十分に説明するとともに、職員間での引き継ぎを行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう事前に見学してもらったり、疑問点等には丁寧に応対するなどの支援を行っている。</p> <p>職員は利用者との日々の作業を共にしており、園芸や畑作り、漬物作り、裁縫等の利用者の得意な場面では教えてもらうなど、助けあいが生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>日々の暮らしの中から利用者のニーズを把握するよう努めるとともに、家族からの情報収集や職員間での話し合いを行った上で介護計画を作成している。</p> <p>入居前の受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援したり、受診結果は家族との共有を図る等、ホームと家族、医療機関が連携を図りながら利用者の健康管理に努めている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりのプライバシーやペース等を大切にケアを提供するよう努めている。また、外出時や入浴時、食事時には希望を取り入れたり、調理や畑仕事などの個々の力量に応じた役割や楽しみごとを促す等、利用者が生き生きと過ごせるよう支援している。</p> <p>感染症に関するマニュアルが作成されており、必要に応じた見直しや職員間での学習会が行われている。また、感染症の流行時には利用者や家族への情報提供も行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割等を十分に理解している。地域密着型サービスが始まってから全職員で理念の見直しを行っており、家庭的な環境、地域住民との交流、自立した生活などが謳われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や食堂ホール、職員室に掲示したり、申し送り時に唱和するなど、職員間での共有を図るとともに、理念を日々のケアに反映させるよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域のスーパーに買い物に出かけるほか、保育園との交流を図ったり、地域の文化祭に作品を出品する等、地域との関わりを持つための取り組みが行われている。法人を通して実習生を受け入れたり、ホーム専属のボランティアを確保し、行事の時には協力してもらおう等、地域に開かれたホーム作りも行っている。また、訪問者を受け入れる時は利用者のプライバシーが保たれるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義等を確認し合った上で職員全員で自己評価に取り組み、管理者がまとめて完成させている。また、前回の外部評価の結果について話し合いを行っており、地域密着型サービスを反映させた理念の作成に取り組む等、改善に向けた取り組みが行われている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、委員の出席率は高い。会議ではホームの取り組みや評価結果等を報告しており、意見や感想等を出してもらっている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当職員が運営推進会議のメンバーとなっており、ホーム便りを定期的に配布したり、評価結果の報告等が行われている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	リーダーは地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修に参加しており、受講後は報告書を作成しているが、全職員へ伝達する取り組みは十分に行われていない。	○	外部研修受講後の伝達研修を行ったり、内部研修のテーマとして定期的に取り上げる等、全職員が制度の概要を理解できるような取り組みに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加する等の取り組みにより、職員は虐待について理解を深めている。また、全職員で話し合いを行い、虐待のないケアについて検討し、実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理念等を利用者や家族に説明するとともに、疑問や質問等には丁寧に対応している。また、退居時も丁寧に説明して同意を得、退居先の情報提供を行う等、利用者や家族の不安の軽減に努めている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や年4回発行しているホーム便り等を通して、暮らしぶりや健康状態等を家族に報告している。また、状態変化等の緊急時は、その都度電話連絡している。金銭管理状況は出納帳に記録しており、定期的に家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等は家族が意見や要望等を話しやすい雰囲気作りに努めている。また、ホーム内外の苦情受付窓口は重要事項説明書に明示し、家族に周知している。家族から意見等が出された時は、ミーティングで話し合い、今後の運営に反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者への影響を理解しており、なるべく馴染みの職員が対応できるよう努めている。異動や新しい職員を配置する際には、利用者十分に説明するとともに、職員間での引き継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダーは職員の資質向上の必要性を認識している。また、年間の研修計画を作成しており、年1回以上は外部研修に参加できるよう調整している。外部研修受講後は詳細な報告書を作成し、全職員に閲覧しているが、伝達研修を行う等、研修内容を詳細に伝達する機会は設けられていない。	○	より詳細に全職員に研修内容が伝わるよう、月1回の職員会議の場を利用したり、内部研修のテーマとして取り上げる等の取り組みに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で同業者と会う機会はあるが、交流や情報交換等の機会を持つまでには至っていない。	○	同業者同士で情報交換等を行い、資質向上に努めたいと意欲的なので、地域包括支援センターの協力を得て交換研修を行う等の取り組みに期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう事前に見学してもらったり、疑問点等には丁寧に対応するなどの支援を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と日々の作業を共にしており、園芸や畑作り、漬物作り、裁縫等の利用者の得意な場面では教えてもらうなど、助けあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通じて一人ひとりの思いを把握できるよう努めている。また、なかなか意思疎通が難しい場合は家族から情報収集を行ったり、職員間で検討する等の取り組みを行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者及び家族から意見や要望等を聞くとともに、サービス会議で職員間での話し合いを行っており、利用者本位の内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヵ月を目途に見直しを行っている。また、利用者の状態や家族の要望等に変化があった時は随時の見直しを行っており、現状に即した計画となっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして、眼科や歯科等の通院介助や外出支援を行っており、利用者や家族のニーズに合わせた柔軟な対応を行っている。また、他の要望にも対応していきたいと意欲的である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診状況を把握しており、利用者や家族の希望する医療機関での受診を支援している。また、医師や看護師の資格を持った職員がいるほか、協力医療機関を確保しており、状態変化時等にいつでも相談できる体制となっている。また、家族と連絡を取り合っており、受診結果等の共有も図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応していないが、日常的な健康管理や急変時は医療機関と連携を取りながら対応することとなっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりの言動を否定したり拒否しないよう接している。また、職員は個人情報保護法を理解しており、個人記録などは事務室に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの言動を急かさず、個々のペースに合わせたケアを提供するよう努めている。また、その日の心身の状態に合わせて柔軟に対応している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の好みが入り入れられている。調理や後片付けなどは利用者を手伝ってもらったり、食事前には献立の説明をする等、食欲増進や楽しみにつながるよう工夫している。また、職員はさりげなく食べこぼし等へのサポートを行いながら、検食を兼ねて一緒に食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、利用者のニーズに合わせ、随時足浴等を支援している。また、入浴時は職員が側に付き、見守り等を行っている。入浴を拒否する利用者には声かけを工夫する等、本人の意志を尊重しながら無理強いすることなく対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や趣味等を把握しており、畑作りや裁縫、調理等、個々に合った役割や楽しみが持てるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や買い物に出かけるほか、温泉やもみじ狩り等、計画を立てて月1回は外出の機会を作っている。また、出かけるときは外出希望の有無を利用者に聞く等、個々の意向に配慮した対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束について学習し、その内容や弊害を理解しており、拘束のないケアが実践されている。やむを得ず拘束を行わなければならない時は家族の同意を得ることとなっているが、拘束の理由や期間、経過等を記録する体制とはなっていない。	○	やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、理由や期間、経過等を記録する様式を整備することに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には鍵を掛けておらず、やむを得ず施錠する場合は家族の同意を得ることとなっている。外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時は職員が付き添う等の支援を行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人本部と一緒に日中と夜間を想定した避難訓練を実施しており、消防署の指導を受ける等の取り組みは行われているが、災害時に備えた食料等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害発生時に備えて数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成しており、バランスやカロリーに配慮された献立となっている。また、食事や水分の摂取量を把握し、記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルが作成されており、必要に応じた見直しが行われている。また、流行時には職員間で学習会を開催するとともに、利用者や家族への情報提供も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には掘りごたつ等が設置されているほか、遠足の写真や手芸作品等が飾られており、家庭的な空間となっている。また、テレビの音量等は調度よく、日射しの強さも適切に調節されており、快適な空間となっている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家庭で使用していた籐椅子やテレビ、人形や写真立て等の馴染みの物が持ち込まれており、一人ひとりにとって居心地の良い空間となるよう配慮している。		

※  は、重点項目。